

令和5年度科学研究費助成事業「学術変革領域研究（A）」に係る中間評価結果

領域番号	20A104	領域略称名	イスラーム信頼学
研究領域名	イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築:世界の分断をのりこえる戦略知の創造		
領域代表者名 (所属等)	黒木 英充 (東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授)		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる)

(評価結果の所見)

全体的に期待どおりの進展が認められる。総括班が強力なリーダーシップを発揮することにより、各計画研究の有機的な連携が実現するという優れたマネジメント体制のもとで、期間内に全8巻の成果出版が達成される見込みであること、多彩なアウトリーチ活動が実施されていること、デジタルヒューマニティーズ的手法による可視化分析という先端的な試みがなされていること等は、高い評価に値する。人文学と社会科学の多様な分野の国内外の研究者を統合し、多数の若手研究者の参加も得て、総合的なイスラーム研究が今後展開される組織的基盤が構築されたことも評価できる。

ただし、深く分断され、相互に対立する状況が深刻化する現代世界において、「世界の分断をのりこえる戦略知の創造」が果たして実現するのかについては、未知数の部分がある。この目的を十全に実現するために、イスラーム的コネクティビティやポスト資本主義といった基礎概念の精緻化や、非イスラーム地域との比較、さらに分断が抜き差しならない武力紛争に発展している多数の事例の考察等が深まることを期待したい。また、本研究領域の成果がより高次の普遍性を持つために、英語やアラビア語による成果の発信が一層推進されるべきである。